

1. 評価結果概要表

平成 20 年 9 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団倭会		
事業所名	グループホーム ねねむ		
所在地	〒052-0011 伊達市竹原町28番地3 (電 話) 0142-22-0616		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年9月11日

【情報提供票より】 (20年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16 年 2 月 16 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 27人, 非常勤 1 人, 常勤換算 26,1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費10000円、暖房費(10月~3月) 5000円		
敷 金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7 月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護 1	5 名	要介護 2	6 名
要介護 3	8 名	要介護 4	6 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 85,5 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団倭会ミネルバ病院, 医療法人守谷内科医院, 医療法人堅田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、伊達インターの近くに開けた住宅街に有り、広い敷地内には野菜畑や花壇があり、利用者が耕してその成長を楽しみながら暮らしている。一人ひとりを大切に、その人らしい以前と変わらない生活を送れる様に、出来る事、出来ない事を見極めながら、日々の生活を支援している。月1回の音楽療法も取り入れ、3ユニットが合同で愉しんでいる。管理者と職員の信頼関係も厚く、事業所が一丸となって利用者のより良い暮らしの実現を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念の取り組みについて、医療法人としての全体の流れの中での変更は難しく、改善に向けて取り組んでいる。地域との相互交流、災害対策なども地域住民を巻き込んだ訓練、地域密着型理念と共に期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニットごとに全員で自己評価に取り組み、管理者、ユニット長でまとめられ、気づき、改善点などを、月1回の会議で話合われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年4回開催されているが、地域交流を目指し、幅広いメンバーの取り組みを期待し、災害対策など、事業所が学習の場として会議内容の充実と、意見を取り入れた運営を期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所内には、意見箱を設置している。家族とは信頼関係も出来ており、面会時や電話連絡の際に表出した、家族の意見等を記録に残しており、ユニット会議や、家族も参加している運営推進会議で話し合い改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) お祭りの子ども神輿の訪問や清掃活動に参加している。散歩時に近所の方と挨拶を交わしたり、婦人会の年1回の訪問を受けたり、自治会役員を通して「ねねむ新聞」が閲覧されたりと、積極的に交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして取り組んでいるが、住み慣れた地域の中で利用者とその家族が地域の一員として、これまでの関係を大切に暮らし続ける為の理念が明確に文書化されていない。	○	地域密着型サービスを理解し、取り組んでいるので、具体的に理念を文書化し、更に地域との交流を深めたサービスの提供に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームや事務所に、理念、方針が掲げられ、カンファレンス等で話し合い、理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りで子ども神輿の訪問や清掃活動に参加するなど、地域との交流の機会を得ている。年に1度定期的に婦人会の来訪が有り、又、自治会役員を通してねねむ新聞を回覧している。	○	自治会主催の行事に、もっと利用者と共に参加する機会を持ち、地域との相互交流に積極的に取り組む事を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は評価の意義について理解しており、職員に周知している。自己評価は管理者、職員が全員で取り組み、「気付き」を更なるケアサービスの向上に繋げる改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催されており、利用者の状況、自己・外部評価についての具体的な説明や報告を行い、参加者との意見交換内容は議事録にまとめている。	○	運営推進会議には地域交流の場所として、幅広い立場の人に参加してもらえる様積極的に働きかけ、更に会議内容の充実を図り、参加者からの意見・要望等を真摯に受け、運営に反映される事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で、運営の実態を共有し、共に取り組むまでには至っていない。	○	運営や現場の実情等を伝える機会を持ち、更に関係づくりを積極的に行い、協同関係を継続していく事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、月に1度ユニット別に行なわれ、更に年に4回の「ねねむ新聞」の発行により、写真やエピソードを交え、利用者の暮らしぶりを知らせている。金銭管理についても、約定を交わしている利用者については、毎月入出金状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は記録に残している。表出された意見はミーティング等で話し合い、運営に活かしている。意見箱も設置され、苦情対応担当者を設け体制を整えている。運営推進会議での家族の意見も取り入れられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えるよう努力しているが、やむを得ない離職が有る場合は利用者に説明し、馴染みの関係を作るためにベテラン職員が新職員との間に入り、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やグループホーム広域連絡会などに研修参加の機会を確保し、働きながら技術や知識を身につけ、資格取得に向けた支援が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や、ケアマネ連絡会などに参加し他法人の事業所との交流を図り、又同法人の事業所との交流も行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が入居前に本人、家族の自宅や病院などを訪問したり、事業所見学に来て頂いて半日を過ごすなりして、徐々に馴染みの関係を作り、安心して入居ができる様に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、書道や畑作りに家事など、利用者一人ひとりの得意分野を大切に、人生の先輩としての教えを頂きながら、学び支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式、チャート方式を活用しながら利用者の思いに寄り添える様に、職員は利用者のプライドを尊重した声かけを行い、表情や行動から意向や希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を考慮し、月1回検討会議が実施され、介護計画、長期目標、短期目標、評価を踏まえて、介護計画を作成している。利用者の担当を決め、それぞれの意見を反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しが行われている。利用者の心身の状況変化に対応し、随時見直しも行われ、家族の訪問時に、状況説明などを行い、同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、ドライブ、家族の宿泊時には、食事、寝具の提供を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、協力医師の訪問診療を受けている。泌尿器科も月1回の往診が有り、医療機関とは密接な協力と連携が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応について、ターミナルケアの経験はないが、急変時希望書を作成し、重度化及び看取り介護に関する指針も整備し、本人・家族に説明されている。協力医との連携体制も取れており、職員との共有も図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の笑顔を大切に、一人ひとりのプライドを傷つけない丁寧な言葉掛けを行っている。個人情報記録の取り扱いについても徹底した管理をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表は無く、一人ひとりのペースを大切に、起床時間も利用者に合わせて声掛けをしている。その日の気分、体調で畑仕事なども、無理強いせず自由にして頂いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、利用者の力量に応じて出来る事を職員と一緒にこなしている。利用者の状態に応じ、刻み食やとろみ食などで食事を楽しむ支援が出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行い、夜間の入浴も対応している。タイミングを計りながら最低週2回は入浴して頂く工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や書道、食事の準備や後片付けなど、利用者のその日の希望に合わせてながら、達成感や満足感が味わえる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望に沿って、散歩や近くに買物に出かけたり、ドライブを兼ねた温泉にも出掛ける等、積極的に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかける事は無いが、夜間8時から明朝7時までは、防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の指導の下に今年からAEDを取り入れ受講の計画がある。年2回の防災訓練を行っているが、地域の協働の取り組みがなされていない。	○	運営推進会議において、事業所の災害時対策に関する理解を求め、災害時の具体的な誘導策など、地域住民との連携、協力が得られる様な働きかけを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量、水分量が記録されている。利用者に合わせた、刻み食、とろみ食などが提供され、栄養バランスは、法人の栄養士によるアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全てバリアフリーになっている。インコ、キンギョが飼われ、季節の花が生けられるなど、和やかな居心地の良い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が宿泊できる出来るスペースもあり、壁一面に家族写真が飾っていたり、仏壇や冷蔵庫が持ち込まれていたり、利用者に合った居室空間になっている。		

※  は、重点項目。